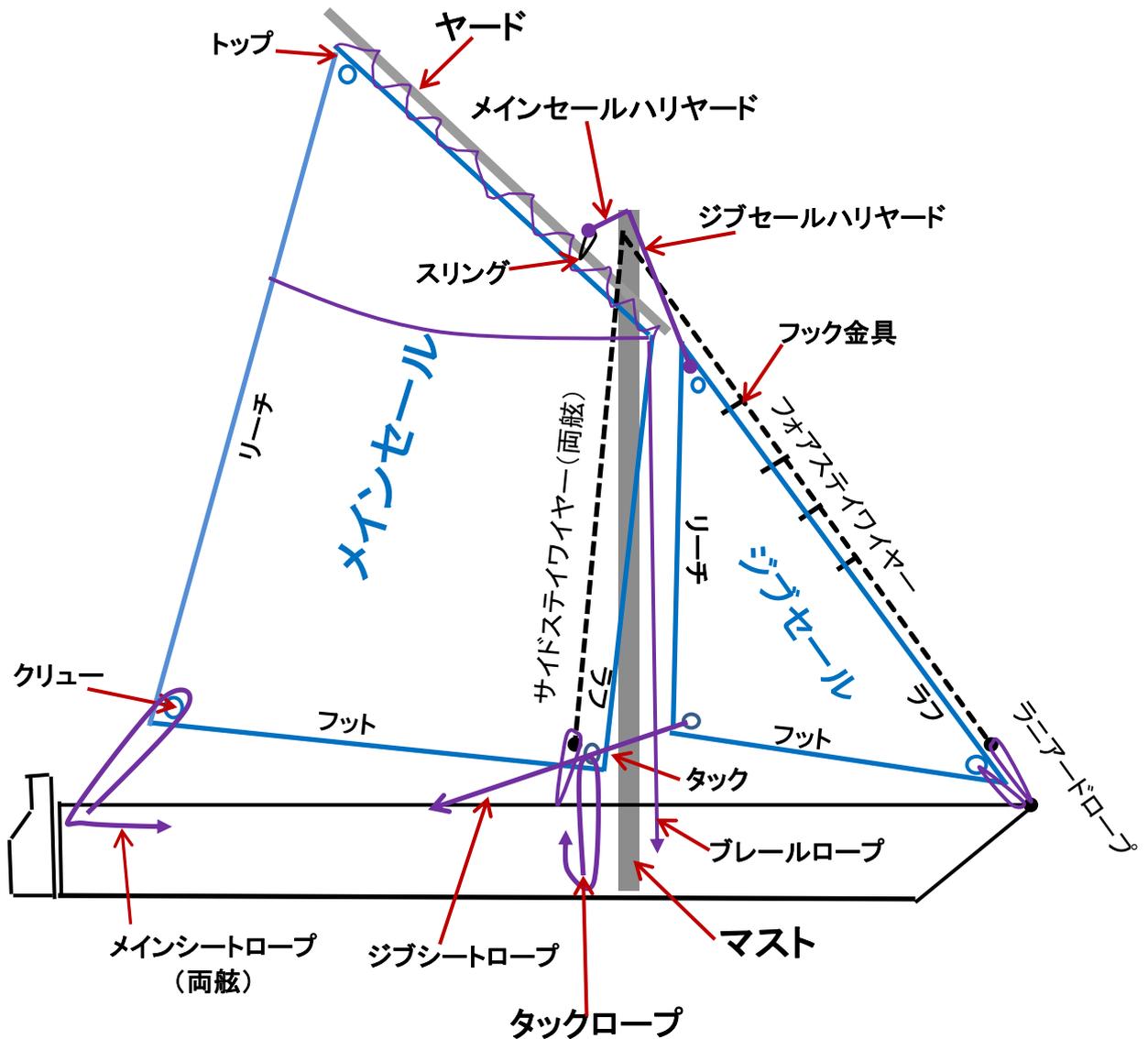


# 6メートルカッター(帆走艇)による「カッター帆走」

## 1 先ず帆装各部の名称とセッティングを覚えて下さい



## 2 重点項目

### (1) タックロープ

メインセールハリヤードでヤード(メインセール)を頂上まで引き上げクリート止めした後、タックロープでメインセールのタックを引き下げるとヤードが立ち上がります。ここには大きな力が掛りますのでダブルの滑車が必要となります。

### (2) メインシートロープ

メインセールを受けた風の力は、メインシートロープから船体に伝わり船を推進させます。従ってこのロープには強い力が掛りますので力を半減させる滑車が必要です。

### (3) ジブシートロープ

ジブセールはメインセールの補助的役割で、通常の風ではあまり強い力は掛りませんが、強い風の場合はクリートで力を殺しながらハンドリングします。

### (4) ブレールロープ

このロープを引くとメインセールが絞り込まれます。その時にはメインシートロープを解放します。出港離岸時・帆走終了で着岸時又は洋上で帆走を中断する場合に使用します。

### (5) ラニアードロープ

マストを固定するステイワイヤーを船体のリングに係止するロープです。係止する方法は実習で習いましょう。ジブセールのタックは金具固定が困難な場合にこの方法を使います。

## 3 帆走

### (1) 風の吹いてくる方向に向かう場合

船首方向と風の来る方向の角度が50度で航走可能限界となり、この状態を**クローズホールド**と言います。この角度で右から風を受けながら暫く走り次に左から風を受けて走るのを繰り返して目的地に近づきます。この様に、風を前方から受けながら向きを変える動作を**タッキング**と言います。

性能の良いヨットでは風に対し35度～40度で走りますが、センターボードの無いカッターでは

**リーウエイ**も加わり実際の航跡は90度に近く、全く目的方向に進まない場合があります。

その様な場合は風下舷にオールを出して漕ぐ必要があります。

タッキングを失敗すると前進速力がゼロで舵も効かなくなり、帆への風圧力で後戻りし始めて危険になります。

※タッキングに習熟するまでは風下舷のオールを躊躇なく使しましょう。

※リーウエイとは、船の実航跡が船首方向(進行方向のつもり)より風下側になる現象

### (2) 前項以外の方向に向かう場合

風の方向が、船首方向に対し右50度を超え同左50度までの状況では、船・帆・風の角度を的確に合わせれば必ず航走可能ですが、舵・帆・船体の傾斜角度を時々刻々調節しなければ速力は落ちるばかりでなく突風による転覆の可能性があります。従って、メインシートロープとジブシートロープは常に誰かが手で常時コントロールする状態でなければならず、決して固縛し放置してはなりません。

### (3) 両シートロープのコントロール方法

帆は常にバタツキしない綺麗なカーブに保つ事が必要ですが、引き締め過ぎると横風圧ばかりが増えて揚力が減殺されるので、バタツキしない最大限に帆を出す(シートを緩める)のが肝要です。

タックロープを強く引き締めている場合にはメインセールに縦の皺が深く出来ますが風が強ければ解消されます。しかし風が弱い時にはタックロープを少し緩めてメインセールの縦皺を浅くしたり、艇を風下側に倒して帆を綺麗なカーブに維持します。

### (4) 後方から風を受けて走る場合

180度の後方から風を受ける場合メインセールはどちらかの舷に90度で大きく膨らんだ状態になります。

この時ジブセールは同じ舷に張り出しても効果なくダラリとしたままになりますので反対舷に張り出して「観音開き」の状態にします。この状態は風圧力最大だが進行方向の空気圧力も最大で揚力がゼロですから、それほど速力は高くなりません。逆に横回転のモーメントが最大ですので大きな波が来た時に転覆の危険性が大なので、出来る限りこの状態は避けましょう。

後方180度から変化してメインセールを反対舷に出したい場合これを**ジャイビング**又は**ウエアリング**と云う動作です。

### (5) ジャイビングの方法

メインセールのクリューには低い位置で重い滑車が付いており、これが暴れて乗艇者に当たり怪我させたり艇の内側を損傷させる可能性が大なので、ブレードロープを引いてメインセールを絞った状態でクリューを掴んで反対舷に移動させます。ブレードロープを引く時には、同時にメインセールのシートを一時解放し、クリュー滑車が反対舷の水面上に出たらブレードロープの解放と同時にメインセールシートを引き締めて調節を開始します。

## 4 基本条件

(1) 風速基準 出港時の平均風速が5m/s以下の事

(2) 漕艇能力 オールで漕ぐ能力ある者6名以上が乗艇する事、

(3) 帆走経験者 指揮者を含め、帆走に自信を持つ経験者が2名以上乗艇する事

(4) 搭載必需品 救命胴衣全員着用、オール6本以上、錨とロープ、アカ汲みバケツ複数、工具一式